

# 「建昌城跡」保存整備基本計画書

**1. 基本理念** 建昌城跡は城山としてこれまで市民に親しまれてきました。保存状態の良い山城遺構に加え、新たに縄文時代草創期・早期の遺構遺物が発見され、ますます史跡としての価値を高めています。自然環境も豊かで市民の憩いの場としての整備が期待されています。

**2. 基本方針** 旧始良町時代から発掘調査と公有地化を進めてきました。平成23年4月19日に始良市指定史跡から鹿児島県指定史跡となりました。平成11年3月に旧始良町で作成されました「歴史と憩いの森公園構想」は、旧ヒナセンターにおける縄文時代の遺跡発見により大きな計画変更を余儀なくされました。山城跡を生かした基本理念は継続されています。建昌城跡には、以下の四つに分けられる異質な要素が重層的に存在しています。

- (1)所在地としての建昌城跡(法面含む)の自然環境
- (2)山頂部に集中する建昌城跡の遺構群
- (3)山頂部東側に所在する古城「瓜生野城跡」遺構群
- (4)山頂部西側から発見された縄文時代(草創期・早期)遺構群

史跡の整備にあたっては、これらのもつ特質を調和させる必要があります。

## 1. 史跡全体

遺構のみならず、建昌城跡全山の自然環境も含めた、史跡の文化財的価値の永続的な保存を目指す。

本質的価値が失われることのないよう、現存する遺構の保全に十分配慮する。

地形・自然環境と重層的に残された遺構からなる建昌城跡の特性を生かした保存と活用を進める。

## 2. 整備目標

市民の憩いの場として、見学者に史跡の価値を伝える学習の場として整備を行う。立地と眺望を活かした観光資源としての価値を高めます。

## 3. 自然環境

始良市の中心市街地に近く、東西には大規模団地が開発されています。建昌城跡は都市化する始良市にとって、最後で最大規模の自然公園ともいえます。

## 4. 城郭遺構群

遺構の復元整備については、これまでの発掘調査の成果をもとに検討する。

<b>年代設定</b>	(2)建昌城跡全体は戦国時代末を想定し、現状の遺構(現曲輪面)を保存します。 (4)縄文時代(草創期・早期)遺構群 国史跡後に整備を図る。(長期)
<b>遺構・建造物の復元</b>	(3) 古城「瓜生野城跡」遺構群 今後の調査により構造規模が判明したものは国史跡後に整備を図ります。(長期)
<b>整備工程</b>	(1)建昌城跡へのアクセス道路の確保 登山道整備(中期・長期) (2)建昌城跡は、現状の遺構保存を基本に整備を継続します。(短期・中期) 山林伐採個所には、計画的年次的に植栽を行います。(短期) 各区域に案内解説板を設置。休憩施設(ベンチ・東屋)を設置します。 (4)縄文時代(草創期・早期)遺構群 国史跡後に遺構の復元整備を図る。(長期)